

研究協力のお願ひ

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

当院における GBS の薬剤感受性に関する検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2016 年 1 月から 2020 年 12 月に

①（産婦人科）当院産婦人科で膣培養検査を行った女性

カルテ番号、培養結果で GBS が検出され場合、薬剤感受性試験結果

②（新生児科）GBS が検出された新生児

カルテ番号、GBS が検出された部位、母体保菌の有無、分娩方法（帝王切開か経膣か）、分娩時抗生剤投与の有無、GBS の薬剤感受性試験

2. 研究目的・方法

B 群溶血性連鎖球菌（以下 GBS）は膣や腸内によくいる細菌ですが、お産の際に赤ちゃんに感染を起こすことがあります。日本では全妊婦さんを対象に妊娠後期に膣分泌の検査を行い、GBS を保菌している方に対し予防的に抗菌薬を点滴しています。一方、抗菌薬の不適切な使用を背景に抗菌薬が効かない耐性化という現象が国際社会でも大きな課題となっています。当院では 2019/5/27-2021/2/8 にアンピシリンナトリウム (ABPC) から、安定した供給が可能なクリンダマイシン酸エステル (CLDM) に抗菌薬を変更した期間があります。そこで今回、当院産婦人科における女性患者さんの膣培養から検出された GBS の検出率と薬剤耐性率（どの程度抗菌薬が効果あるのか）を調べ、また、抗菌薬変更前後において赤ちゃんから検出される GBS の薬剤耐性率を調査することを目的としました。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから 2022 年 12 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

①（産婦人科）当院産婦人科で膣培養検査を行った女性

カルテ番号、培養結果で GBS が検出され場合、薬剤感受性試験結果

②（新生児科）GBS が検出された新生児

カルテ番号、培養検出部位、母体保菌の有無、分娩方法（帝王切開か経膣か）、分娩時抗生剤投与の有無、GBS の薬剤感受性試験

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院 産婦人科

氏名：奥山亜由美

住所：224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000

研究責任者：上記